

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2015年2月14日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程

日本・アジア文化選修 3年次

氏名：佐藤 千浩

派遣大学名：蘭州大学 (中国)

在籍身分：交換留学生

派遣期間：11か月

渡航年月日：2014年2月26日

帰国年月日：2015年1月20日



蘭州大学正門

○派遣先大学における授業等の履修状況

| 講義名 | 講義履修期間 | 週あたり講義時間 | 習得単位 | 取得単位 |
|-------|---------------|----------|------|------|
| 初級口語Ⅱ | 2014/3～2014/7 | 3時間半 | 6 | 6 |
| 初級漢語Ⅱ | 2014/3～2014/7 | 6時間半 | 10 | 10 |
| 初級聴力Ⅱ | 2014/3～2014/7 | 3時間半 | 4 | 4 |
| 中級口語Ⅰ | 2014/9～2014/1 | 5時間 | 6 | 6 |
| 中級漢語Ⅰ | 2014/9～2014/1 | 5時間 | 8 | 8 |
| 中級聴力Ⅰ | 2014/9～2014/1 | 3時間半 | 4 | 4 |
| 中級読書Ⅰ | 2014/9～2014/1 | 3時間半 | 4 | 4 |

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

前期は初級Ⅱクラス、後期は中級Ⅰクラスに在籍し中国語を学習しました。1週間の授業は主に口語（スピーキング）、漢語（文法）、聴力（リスニング）、読書（リーディング）の4つで構成されています。口語（スピーキング）の授業は教科書を基に主によく取り上げられるテーマを扱い、会話の場面での特有の言い回しなどを主に勉強します。授業中は、学習した文法を使って自分で例文を作ったり、ペアで対話練習をするなどの授業内容になっています。漢語（文法）の授業では教科書を基に文法、語彙の区別を主に勉強し、毎回の授業中には教科書本文の要約を書いて発表したりする内容になっています。聴力（リスニング）の授業では毎回、教科書の1単元を学習し終えるペースで先生が授業でCDを流し、問題を解き、先生の解説で授業は進み、学期末には単語テストが実施されています。読書（リーディング）の授業は主に、中国語の短



クラスメイトと

蘭州市内の公園から眺める黄河



文・長文をどのようにすれば早く、正確に読み説くことができるか、教科書の文章を読み問題を解いていき授業が進みます。蘭州大学の中国語クラスは少人数クラスなので発言機会が比較的多い上に、すべての授業において「話す」ということが重視されています。

蘭州大学は中国甘粛省の蘭州市にある大学です。甘粛省は少数民族の回族が多く住んでいると

言われる場所で他の都市に比べ、蘭州市内にはムスリムの飲食街が立ち並んでいたり、モスクなどもあります。そのような環境で1年間生活したことで、回族など中国少数民族の問題に興味を持ち、少数民族に関する本を読んだりしました。また、実際自分の目で中国の生活を体験し、中国人と交流する中で中国に関して興味を持ったことは、中国の若者の伝統芸能離れに関することや中国の歴史教科書・映画に描かれる中国人と日本人の姿について、日中政治関係とそれに伴う中国の反日・親日感情についてです。このように中国で生活し、感じたこと、興味をもったことを参考に卒業研究を進めていきたいと思いました。また、今後はHSK6級合格を目指して中国語学習を続けていくつもりです。

○生活面について

留学生は留学生専用の寮で生活することになります。留学生の寮は2つあり、私が住んでいた寮はシャワー、トイレ、ネット、ベッド、簡易キッチンが完備されています。寮は2人部屋となっており、シャワーのお湯は24時間使用可能です。また、鍋、フライパン、電気プレートを貸出してくれるので、時間がある週末などは自炊をしました。留学生寮なので、普段交流のない他の留学生と知り合うことができます。私の場合は、同じ日本人の方と日本料理を作って友達に振舞うなどして、他の留学生と交流しました。私のルームメイトは前期・後期とも韓国人で、特に大きな文化の違いもなかったため快適に生活することができました。



食事は基本的に大学内の食堂で摂っていました。大学前に飲食街があるのですが、やはり食堂のご飯は値段も安いので、そちらを利用していました。授業が早く終わって時間があるときは、友達と大学前の飲食街で食事をすることもあります。大学前には、蘭州名物「牛肉麵」のお店が3件、また新疆料理が2件と種類も豊富です。週末には友達とバスに乗って買い物に出かけたり、映画を見たり、カフェやご飯を食べに行ったりしました。最近は大学からバスで10分ほどのところに、大きなショッピングモールが完成しました。基本的に授業は午前で終了する場合や、午後の早い時間に終わるので、自分の時間を有効活用することができます。私はよく、友達と蘭州のカフェ探索をし、いいカフェを見つけてはそのカフェで勉強していました。

○その他留学全般に関する感想

大学では留学生を対象に様々なイベントが開催されています。私が留学していた期間には、「バドミントン大会」、「留学生対象旅行」、「運動会」、「クリスマスパーティー」「新年イベント」が行われていました。私が印象に残っているのは「新年イベント」です。このイベントでは参加希望の留学生がダンスや歌を披露しました。普段見ることのできない各国の伝統ダンスや歌を間近で見ることができ、とても良い経験になりました。蘭州大学には留学生が参加できるイベントが多くあり、様々な国の学生と交流できる良いきっかけになりました。また、様々なイベントを通して留学生だけでなく中国人学生と交流できる機会も多く、留学にはとてもいい場所だと思います。

蘭州に来たばかりの頃は、まだ耳が中国語に慣れず、中国語がうまく聞き取れない、中国語で流暢に答えられないということがありました。しかし、蘭州大学に所属している日本人は少数で、留学生のほとんどが中央アジアの学生で必然的に中国語を話す機会も多く、この留学期間で自分の中国語をレベルアップさせることができました。また、先生方、友達が親身になって私の悩みを聞いてくれたり、アドバイスしてくれたので、初め多少の不安はありましたが、実りの多い1年にすることができました。

長期休暇中にはできるだけ多くの場所に旅行に行きました。寝台列車に乗っている時には気さくに話しかけてくれるおじさんと世間話をしながら目的地に向かったり、不慣れな地で幾度となく道を尋ねたり、道を尋ねられたり、中国人の友達と現地集合して観光したりと旅行をしながら自分の中国語を試すきっかけになっただけでは無く、その土地ごとの空気感、人柄も違うこと、中国はやはり広大なのだなど実感しました。

1年という留学期間を頂いたとき、留学前にこの1年で自分が中国でどのくらい成長できるのかと考えました。今振り返ると、文化の違いの中で、不安になったり、壁にぶち当たること、心が折れそうになることもありました。不安に負けず突っ走って1年頑張ってきたおかげで、行動力や忍耐力が身に付いたと思います。

最後に、1年間無事に留学を終えることができたのは、たくさんの方の支援があったからです。秋田大学・蘭州大学の先生方、友達、そして多方面でサポートしてくれた家族に心から感謝したいです。

大学主催の運動会



夏休みの旅行にて